

名古屋城天守閣木造化 経緯を振り返って

2016/5/15 名古屋市民オンブズマン

1. 経緯

- 2015/3 名古屋市 名古屋城整備検討調査報告書
- 2015/6 河村市長 2020年7月までに木造化を目指すと表明
- 2015/12 タウンミーティング（16回）
- 2016/3 優秀提案 竹中工務店案を採用
- 2016/5 優秀提案市民向け報告会（5回）・2万人アンケート

2. タウンミーティング・報告会とは何か

- タウンミーティング 15/12/6-16/1/17まで全16区で開催 200人規模
区長・市長あいさつ、市職員説明、参加者質問と市長・市職員回答（45分）、市長あいさつ
 - 優秀提案市民向け報告会 16/5/10-16/5/15まで全5回開催 150人規模
市長・議長あいさつ、市職員説明、竹中工務店説明、参加者質問と市職員回答（30分）、
市長・議長あいさつ ☆ネット中継 2万人アンケート送付者に案内も各10人程度。
- ※参加したい人が参加する形

3. 資金計画の推移

- 2015/3 270億～400億 工期約18年と市が試算
- 2015/12/12 市長「税金を使わず」 30年償還で300万人と試算 建設費のみ
- 2016/1/18 400億円の場合、442万人必要と試算 建設費のみ【別紙1】
- 2016/3/29 竹中工務店 470億-500億と試算
- 2016/4/22 2021年度446万人入場 その後360万人で試算 市民450円市外1000円【別紙2】
※技術提案・交渉方式（設計交渉・施工タイプ）のデメリット 【別紙3】

4. 情報公開について

- 15/8/24 市議会超党派議員勉強会を非公開で開催。資料も一部非公開
- 15/12/9 公募型プロポーザル現場説明会 非公開で開催。内容も非公開
- タウンミーティング 議事内容が分かるもの、メモも不存在。
→16/3/15に概要開示。16/4/28に議事録ようやく開示。

5. アンケート【別紙4】

- 無作為抽出で2万人に郵送。

→単なる箱モノづくり

- ・市長の独断で決定
- ・「民意を聞いた」という外皮をまとっている

総事業費	400億円
国庫補助金	0億円
市債	400億円 (充当率100%)
税等	0億円

【年次割】

年度	㉙	㉚	㉛
出来高(仮)	20%	30%	50%
事業費	80億円	120億円	200億円
国庫補助金	0億円	0億円	0億円
市債	80億円	120億円	200億円
税等	0億円	0億円	0億円

〔前提条件〕

30年公募債を発行

利率1.527% (平成27年11月堺市実績) で算出

入場料1人500円

(単位: 億円、人)

区分	元金	利払い額 (年1.527%)	公債費	必要な入場者増数	
				元金+利子	うち利子のみ
29年度					
30年度		1.2216	1.2216	244,320	244,320
31年度		3.054	3.054	610,800	610,800
32年度		6.108	6.108	1,221,600	1,221,600
33年度		6.108	6.108	1,221,600	1,221,600
34年度		6.108	6.108	1,221,600	1,221,600
35年度	3.2	6.108	9.308	1,861,600	1,221,600
36年度	8	6.108	14.108	2,821,600	1,221,600
37年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
38年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
39年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
40年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
41年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
42年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
43年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
44年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
45年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
46年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
47年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
48年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
49年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
50年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
51年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
52年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
53年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
54年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
55年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
56年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
57年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
58年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
59年度	16	6.108	22.108	4,421,600	1,221,600
60年度	12.8	4.8864	17.6864	3,537,280	977,280
61年度	8	3.054	11.054	2,210,800	610,800
合計	400	183.24	583.24		

< 問い合わせ先 >

財政局財政部資金課 清水・松原 (内線2311)

■ 収支計画（全国型市場公募債の場合による試算）

・ 期間：平成28年度～平成81年度

・ 名古屋城入場料（竣工後）：市民450円 市民以外1,000円 / 現行500円

収入			支出		
事項	金額 (百万円)	積算	事項	金額 (百万円)	積算
入場料収入	97,928	名古屋城全体の入場料収入のうち、75%を天守閣に充当 H32(8カ月) 1,791百万円 (入場者331万人) H33 2,413百万円 (入場者446万人) H34 2,170百万円 (入場者401万人) H35以降1,948百万円 (入場者360万人)	建設費 (利子含む)	60,567	元金：50,500百万円 利子：10,067百万円
			運営管理費	27,645	H26年度実績に基づき算出 H28～H31年度（天守閣閉鎖中） 各年度平均約114百万円を計上 H32～81年度 各年度平均約544百万円を計上
			集客促進費	200	木造復元にかかる周年事業
			修繕費	3,086	H81年度までの必要額
			基金積立	6,430	支出を上回る収入について基金積立
			計	97,928	

・ 収支計画は、起債の償還期間終了までの平成28～81年度で作成しています。
 ・ 起債の発行年率や年次割等は、直近の実績などを参考に一定の条件で算出（年率0.665%、40年償還、20年債1回借換え等）
 注 「運営管理費」については、効率的・効果的な運営や大阪城など他の城郭における民間活力の活用状況を検討することにより、さらなる経費削減に努めます。

(2) 入場者数見込み

単位：万人

年度	入場者数	増加要因	減少要因
27	174		
28	180(197)	閉鎖に伴う駆け込み需要 本丸御殿第2期公開	天守閣閉鎖
29	90(98)		
30	160(174)	天守閣木造復元見学施設完成 金シャチ横丁第1期開業 本丸御殿全面公開	天守閣閉鎖中
31	160(174)	展示収蔵施設完成	
32	384(418)	木造天守閣竣工	
33	446(485)		
34	401(437)		ブーム縮小
35	360(393)		
36～81	360(393)		

()内の数字は入場者数の最大見込みの数

4 民間業者からの技術提案

(1) 概要

天守閣については、「木造復元した方が良い」、「耐震改修した方が良い」などの意見がありますが、名古屋市においては、市長の「世界にアピールできる千載一遇のチャンスである東京オリンピック・パラリンピックにあわせ2020年7月までに天守閣を木造復元する」という方針が示されたことから、4年余りの中での迅速な整備が求められています。

木造復元の際には、仕様の前提となる条件の確定が困難な工事であることなどから、民間ノウハウを活用する「技術提案・交渉方式」を採用し、工期・工程・概算事業費などを明らかにするため、2020年7月までに天守閣を木造復元するという提案を募集しました。

その結果、「株式会社 竹中工務店」の提案を「優秀提案」に選定しました。

今後、当該業者と価格や設計、施工計画、施工方法を交渉した上で、契約の相手方に決定することになります。

16

■技術提案・交渉方式を採用した理由

- ・劣化した石垣や既存のケーソン基礎の取扱いなど様々な課題があり、仕様の確定が困難である。
- ・特別史跡内に大規模木造建築物を復元する工事であるため、最も優れた技術提案によらなければ工事目的の達成が難しい。

※「技術提案・交渉方式」とは、技術提案を募集し、最も優れた提案を行った者を優先交渉権者として、その者と価格や施工方法等を交渉し、契約の相手方を決定する方式

■技術提案・交渉方式のメリット・デメリット

メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでになかった厳しい条件下で、高度な技術が必要とされる工事の施工が可能である。 ・ 施工業者がノウハウを活かして設計を行うことから、効率的な施工が可能となり、工期の短縮に繋がる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提案する目的物の品質・性能と価格等のバランスの判断が困難になり、発注者にとって過剰な品質で高価格な提案となる恐れがある。 ・ 施工業者が実施する設計に対し、的確な判断や指示を行う能力が発注者に必要となる。

17

名古屋城天守閣の整備・2万人アンケートへのご協力をお願い

調査票にご記入の上、5月20日（金）までにご投函ください。

日ごろは、市政にご理解・ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

現在の名古屋城天守閣は、再建から半世紀以上が経過し、コンクリートの劣化や設備の老朽化、耐震性の確保など様々な問題が顕在化しており、いずれかの時期には建て替えの必要があると考えています。

天守閣については、「木造復元した方が良い」、「耐震改修した方が良い」などの意見がありますが、名古屋市においては、市長の「世界にアピールできる千載一遇のチャンスである東京オリンピック・パラリンピックにあわせ2020年7月までに天守閣を木造復元する」という方針が示されたことから、4年余りの中での迅速な整備が求められています。

木造復元の際には、仕様の前提となる条件の確定が困難な工事であることなどから、民間ノウハウを活用する「技術提案・交渉方式」を採用し、工期・工程・概算事業費などを明らかにするため、2020年7月までに天守閣を木造復元する提案を募集しました。

今回のアンケートは、優秀提案の内容や収支計画などの情報をお知らせし、みなさまのご意見をお伺いするものです。名古屋城天守閣の整備については、市民の皆様のご理解を得ながら進めてまいります。

趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

▼アンケートについてご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

名古屋市役所 観光文化交流局 ナゴヤ魅力向上室 : 舘、西川

電話：(052) 972-2226 / FAX：(052) 972-4199

問合せ時間：月曜日から金曜日の午前8時45分から午後5時30分まで（祝日を除く）

※FAXは常時受け付けておりますが、お電話でのお問い合わせにつきましては上記時間内とさせていただきますので、ご了承ください。

調 査 票

～ご記入にあたってのお願い～

◆アンケートは**必ず封筒の宛名のご本人**がご回答ください。

(ご本人が記入できない時は、身近な方がご本人から聞き取り、ご記入ください)

◆同封されている「名古屋城天守閣の整備 2万人アンケート説明資料」をご覧ください、ご記入ください。

◆調査票及び封筒には、ご住所やお名前を書いていただく必要はありません。
また、切手を貼る必要もございません。

◆回答結果は、統計的な数値として集計する以外には使用しませんので、ご自身の率直なお考えやご意見をご記入ください。

◆ご記入いただきました**調査票**を同封の返信用封筒に入れ、**5月20日(金)**までに、郵便ポストにご投函ください。

問1 今までに、何回名古屋城を訪れましたか？(1つに○)

- | | |
|----------------|----------|
| 1 1回 | 2 2回 |
| 3 3回以上(年__回程度) | 4 訪れていない |

問2 何を楽しみに見学されましたか？(複数回答可)

- | | | | |
|---------|------------|-------|------|
| 1 天守閣 | 2 本丸御殿 | 3 庭園 | 4 石垣 |
| 5 自然 | 6 おもてなし武将隊 | 7 お土産 | 8 食事 |
| 9 シャチホコ | 10 その他() | | |

問9 現天守閣は、再建から半世紀以上が経過し、コンクリートの劣化や耐震性能が現行基準に合わないなど様々な課題が顕在化しており、現行天守閣を耐震改修した場合でもコンクリートが概ね40年の寿命という調査結果が出ています。この度2020年7月までに天守閣を木造復元するという提案を募集し「株式会社竹中工務店」の優秀提案（事業費約474～505億円、2020年7月天守閣竣工）が選定されたところです。

市民の皆様のご理解を得ながら進めてまいりたいと考えております。天守閣の整備について、今後どのようにしたら良いと思いますか。（1つに〇）

- 1 2020年7月までに優秀提案による木造復元を行う
（事業費：約474～505億円、耐震性確保）
- 2 2020年7月にとらわれず木造復元を行う
（工期、金額、契約方法等の検討が必要）
- 3 現天守閣の耐震改修工事を行う
（事業費：約29億円、基礎・石垣を含まない、概ね40年の寿命）
- 4 その他

[]

問10 あなたが「名古屋城の魅力向上」のために、「よりPRをするべき」・「より力を入れるべき」と考える項目とその理由を教えてください。

（複数回答可）

- | | | | |
|---------|------------|---------|------|
| 1 天守閣 | 2 本丸御殿 | 3 庭園 | 4 石垣 |
| 5 自然 | 6 おもてなし武将隊 | 7 お土産 | 8 食事 |
| 9 シャチホコ | 10 金シャチ横丁 | 11 その他（ | ） |

その理由

[]

あなたご自身について

問 11 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

- 1 男 2 女

問 12 あなたの年代をお答えください。(1つに○)

- 1 10代 2 20代 3 30代 4 40代 5 50代
6 60代 7 70代以上

問 13 あなたが現在お住まいの区をお答えください。(1つに○)

- 1 千種区 2 東区 3 北区 4 西区 5 中村区
6 中区 7 昭和区 8 瑞穂区 9 熱田区 10 中川区
11 港区 12 南区 13 守山区 14 緑区 15 名東区
16 天白区

ありがとうございました。

ご記入いただきました本冊子を同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに投函してください。

【名古屋城について、ご意見等ご自由にお書きください】

()

天守閣木造復元にかかるお金等について

優秀提案に示された概算事業費(建設費・設計費)505億円を基に収支計画を試算しました。運営管理費も含めた総事業費については、市債を発行するなど財源を確保し、全額、入場料収入で返済します。

今回の収支計画を試算するにあたり、入場料については、市民450円、市民以外1,000円と設定しました。

市民については、「名古屋城は長年にわたり市民に支えられてきた施設ですが、来場者の中で市民の占める割合が少なく市民に配慮する必要がある」、「戦略的なシティプロモーションの一環として、市民に名古屋城の魅力を情報発信する役割を担ってもらう」ことなどから特別料金を設定しています。なお、入場料の変更には、条例の改正が必要です。

■収支計画 (期間:平成28年度~平成81年度)

名古屋城入場料(竣工後):市民450円 市民以外1,000円 / 現行500円

※詳しくは「2万人アンケート 説明資料」
(天守閣木造復元にかかるお金等)をご覧ください。

収入			支出		
事項	金額(百万円)	積算	事項	金額(百万円)	積算
入場料収入	97,928	名古屋城全体の入場料収入のうち、75%を天守閣に充当	建設費(利子含む)	60,567	元金: 50,500 百万円 利子: 10,067 百万円
		H32(8カ月) 1,791百万円(入場者331万人)	運営管理費	27,645	H26年度の実績に基づき算出 H28~31年度(天守閣閉鎖中) 各年度平均約114百万円 H32~81年度 各年度平均約544百万円
		H33 2,413百万円(入場者446万人)			
		H34 2,170百万円(入場者401万人)			
		H35以降 1,948百万円(入場者360万人)			
計	97,928	計	97,928	集客促進費 200 修繕費 3,086 基金積立 6,430	

・収支計画は、起債の償還期間終了までの平成28~81年度で作成しています。
・起債の発行年率や年次割等は、直近の実績などを参考に一定の条件で算出しています。(年率0.665%、40年償還、20年債1回借換えなど)

名古屋城本丸御殿 第2期公開 開始

本丸御殿は、現在国宝である京都・二条城の二の丸御殿に並ぶ武家風書院造の最高傑作といわれています。その歴史的意義を踏まえ、焼失前と同等の文化的価値を有するとともに広く市民が活用でき、世界的な市民の財産となるように、工期を3期10年で本丸御殿の復元を進めています。

6/1(水)【対面所・下御膳所】
公開開始! ぜひ、お越しください

名古屋城天守閣の整備



アンケートに答える前に見てね!

木造復元?



名古屋のシンボル「名古屋城」。「名古屋城天守閣の整備」についてあなたのお考えを教えてください。

耐震改修?



戦前

天守閣と本丸御殿
(旧国宝第一号)



1610年に徳川家康の命によって築城に着手し、1612年に天守閣が竣工されました。1930年に天守閣・本丸御殿が城郭として、国宝第1号(旧国宝)に指定されました。

戦後

天守閣の再建



昭和32年に工事に着手し、昭和34年に竣工しました。総工費6億円のうち、約2億円が寄附で賄われました。

戦時中

戦災による焼失



昭和20年5月14日、空襲により大天守閣・小天守閣など多くの建物が焼失しました。

写真: 東海軍管区司令部報道部 岩田一郎氏 撮影「名古屋空襲を記録する会」蔵

名古屋城のあゆみ

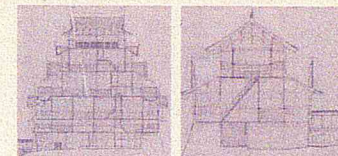
再建から半世紀が経過し、さまざまな課題が発生しています。天守閣整備についての課題
・民間業者からの提案は、中面をご覧ください。



問合せ: 名古屋市役所 観光文化交流局 ナゴヤ魅力向上室
電話: (052)972-2226 / FAX: (052)972-4199
問合せ時間: 月曜日から金曜日の午前8時45分から午後5時30分まで(祝日を除く)

「貴重な記録資料が残っています」

昭和実測図
昭和7年から27年にかけて天守閣をはじめ、国宝建造物24棟の実測図面を作成
大天守閣: 56枚 / 小天守閣: 15枚



昭和実測図が多数残っているため、史実に忠実な復元が可能とされています。



天守閣整備に 対する課題

再建から56年が経過し、
課題が発生しています。

- ① コンクリートの劣化や設備の老朽化、石垣の変形などが進行しています
- ② 耐震性能が現行基準に合わず、耐震改修したとしても概ね40年の寿命とされています
⇒ 耐震診断の評価Ⅱ-2(本市耐震基準による)震度6強程度の地震に対して、倒壊または崩壊する可能性が高い

こうした課題を踏まえると、
いずれかの時期には天守閣を建て替える必要があります。

1 「早期の木造復元」か「耐震改修後に木造復元」か？

名古屋市では、平成26年度に『可能な限り早期に木造復元した場合』と、『耐震改修した後に木造復元した場合』とに分けて、課題等について比較検討を行いました。その結果、「一般木材の流通量」はそれほど変わりませんが、「太い木材」の入手については、40年後には極めて困難になるという結果になりました。また、「社会情勢」につきましても、大工や技術者の確保など、今後より一層厳しくなると予想がなされています。

2 2020年7月完成を目指した検討

天守閣については、「木造復元の方が良い」、「耐震改修の方が良い」などの意見がありますが、名古屋市においては、市長の「世界にアピールできる千載一遇のチャンスである東京オリンピック・パラリンピックにあわせ、2020年7月までに天守閣を木造復元する」という方針が示されたことから、4年余りの中での迅速な整備が求められています。

3 民間業者から技術提案を募集

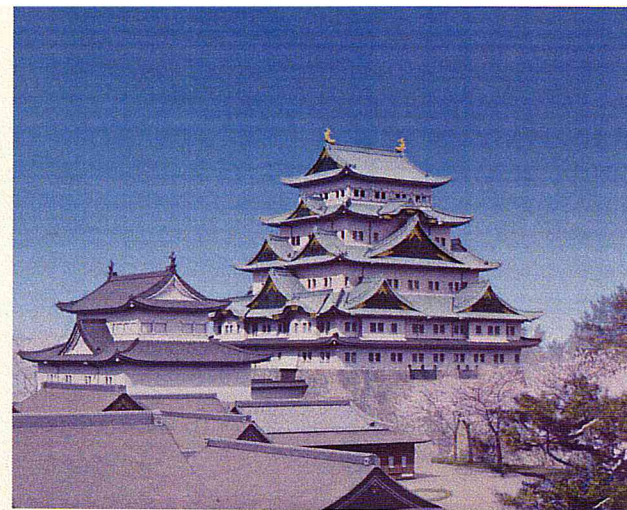
木造復元の際には、仕様の前提となる条件の確定が困難な工事であることなどから、民間ノウハウを活用する「技術提案・交渉方式」※を採用し、工期・工程・概算事業費などを明らかにするため、2020年7月までに天守閣を木造復元する提案を募集しました。

その結果、「株式会社 竹中工務店」の提案を「優秀提案」に選定しました。(右面参照)
今後、当該業者と価格や設計、施工計画、施工方法を交渉した上で、契約の相手方に決定することになります。

※「技術提案・交渉方式」

技術提案を募集し、最も優れた提案を行った者を優先交渉権者として、その者と価格や施工方法を交渉し、契約の相手方を決定する方式

メリット	<ul style="list-style-type: none"> これまでない厳しい条件下で、高度な技術が必要とされる工事の施工が可能である。 施工業者がノウハウを活かして設計を行うことから、効率的な施工が可能となり、工期の短縮に繋がる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 提案する目的物の品質・性能と価格等のバランスの判断が困難になり、発注者にとって過剰な品質で高価な提案となる恐れがある。 施工業者が実施する設計に対し、的確な判断や指示を行う能力が発注者に必要となる。



東南側から本丸御殿の屋根越しの外観



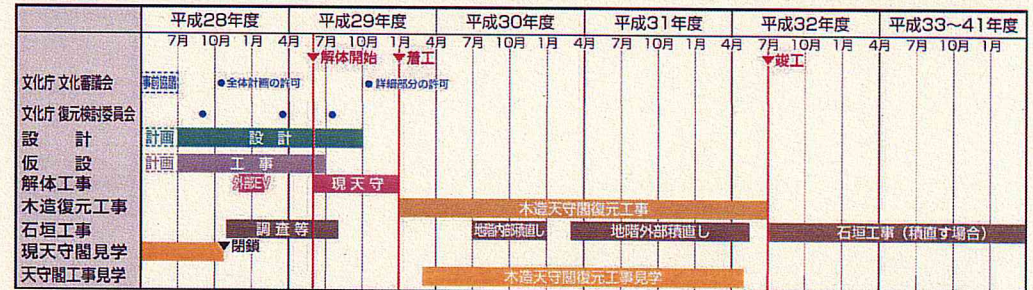
大天守 5層之間

大天守 3層階段

大天守 2層入側

小天守 1層入側

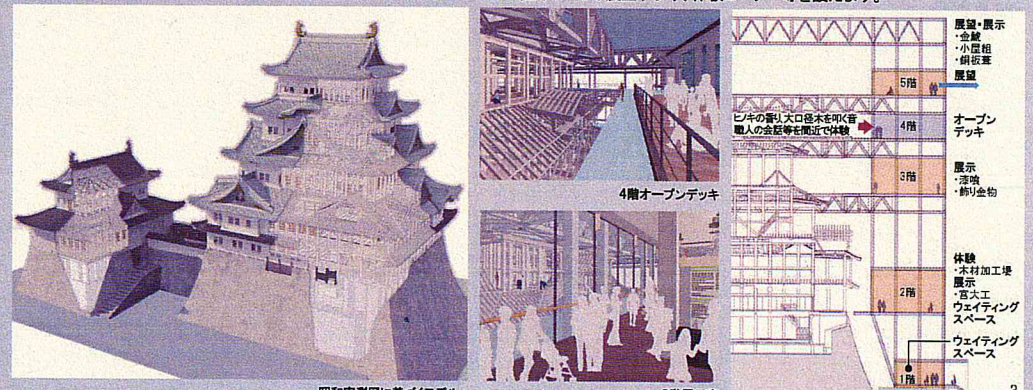
■ 工程計画



※本計画は、平成28年4月時点のものです。今後の交渉により計画が変更となる場合があります。

木造天守閣復元工事を目の当たりに見学できます

工事中の天守閣を囲う「素屋根」には、
見学フロア、展望デッキ、体験コーナー等を設けます。



昭和突抜図に基づくモデル

3階展示室

3

民間業者からの 技術提案

(平成28年4月時点の内容です)

POINT

- ① 史実に忠実な木造天守閣を復元
- ② 平成32年7月末に天守閣を復元
- ③ 実現性のある総事業費を提案
(建設費・設計費)

提案者	株式会社 竹中工務店
バリアフリー化	小型エレベーター設置を検討 (地階~1階、1階~4階) (車いす利用可:4人乗り)
復元過程の公開方法	工事現場内見学施設(5階建て)
木材利用	原則、国産材 一部外材を使用
総事業費(税込み) (建設費・設計費)	石垣の整備手法等により 約474~約505億円
天守閣竣工時期	平成32(2020)年7月

「熟議民主主義」の必要性

田村哲樹（名古屋大学法学研究科）

はじめに

- 「名古屋城問題」そのものをメインに扱うわけではない
- 「熟議民主主義とは何か（何ではないか）？」、「どのような理由でそれが必要とされるのか？」についての一般的な説明が中心

1. 熟議民主主義とは何か？

- 話し合い（talk）中心の民主主義
 - * 多数決でもなく、単なる参加でもなく
- 「熟議（deliberation）」の意味
 - * 熟慮する＋議論する
 - * 反省性＝自分の考えを見直すこと
- 「理性／理由（reason）」中心の民主主義
 - * 「数の力」ではなく、「理由の力」
 - * 熟議＝意見に付された「理由」の妥当性を吟味しあうプロセス
→妥当ではないとされる意見は見直しを求められる
 - * そのプロセスの結果としての合意形成
→熟議で合意できるのか？
→「合意」の定義次第（結論レベルの合意だけが重要なのではない）
- だからといって、必ずしも「理性的討論」だけが求められるのではない
 - * 「感情」に訴えるコミュニケーションもあり得る
→挨拶（身振り手振り）、レトリック、物語ること（ストーリー・テリング）など
 - * それによって、強制的ではない形で意見の変化が起こるならば、熟議的と言える
- 熟議で得られる（とされる）もの
 - ① 「正しい」結論＝正当性
 - ② 「納得できる」結論＝正統性
 - ③ 人々の相互理解＝社会統合
- 具体的な制度の例：「ミニ・パブリックス mini-publics」（篠原編 2012；曾根ほか 2013；柳瀬 2015）
 - * （主に）無作為抽出で集められた市民が特定のテーマについて議論する
 - * なぜ無作為抽出？
→「普通の市民」による熟議のため
 - * 「討論型世論調査（DP）」「市民討議会」「コンセンサス会議」など

- ・ 目的（提言をまとめるか否か）、人の集め方などで違い
- ・ 有名な例：「エネルギー・環境の選択肢に関する討論型世論調査」（2012年7月～8月）（柳瀬 2015: 第4章; 曾根ほか 2013）
 - ・ 2030年までに原子力発電依拠率について、①0%（ゼロシナリオ）、②15%程度（15シナリオ）、③20～25%（20～25シナリオ）の三つの選択肢を提示し、熟議を通じた参加者の立場の変化を見る。
 - 熟議後、A) 基礎的な知識についての理解が深まるともに、B) 選択肢①の支持者が増加
 - ・ 政府の「革新的・エネルギー環境戦略」策定（「2030年代に原発稼働ゼロ」）の参考に（当初からそのことを明示。DPで必須というわけではない）
- 「参加」と何が違うのか？
 - * 単なる参加＝熟議ではない
 - 熟慮する＋議論する＋意見を見直す・変化する（可能性がある）ことが必要
 - * 熟議と緊張関係に立つ可能性がある「参加」の諸形態
 - ① アンケートやパブリック・コメント
 - ・ 熟慮＋議論＋変化の契機がない
 - ・ 熟議によって「練られた世論」ではなく、「生の世論」（フィッシュキン 2011）
 - どこまで信頼に足るか？
 - ② ロビイング／アドボカシーや、社会運動
 - ・ 既に確定した立場・意見に基づく参加
 - 熟議を通じた意見の変化ではない
 - ・ 「強い関心」を持つ人々による民主主義
 - ⇔ ミニ・パブリックスでは、そうでない「一般市民」の参加を想定
 - 特定の立場・意見の実現ではなく、熟議を通じて生まれてくる「練られた意見」
 - ③ 自由参加の＝無作為抽出ではないフォーラム
 - ・ 「強い関心」を持つ人々の参加
 - 特定の組織・集団としての参加・動員の可能性
 - ・ 結果的に、熟議を妨げる可能性
 - * 補足
 - ・ ①～③が必然的に熟議と相反する、というわけではない
 - ・ 「強い関心」を持つ組織・集団を含めた熟議民主主義を考えることも可能（参考：田村 2016）

2. なぜ熟議が必要なのか？：現代社会の変化から

- 意見や価値の多元化が進む時代
 - * 「個人化」「再帰化（再帰的近代化）」と呼ばれる時代
 - * 「当たり前」を前提にできない時代
 - * 「わかりあえないことから」（平田 2012）
 - * その上で、「わたし（たち）」が決めていかなければならない

- 予想される帰結（宇野・田村・山崎 2011: 第1章など）
 - ① 異なる意見・価値観の衝突
 - ② 私的問題と公的問題との媒介の不具合
 - ③ 個人の負担増大
- 熟議民主主義による対応
 - ①について・・・熟議を通じた合意形成の模索
 - ②について・・・熟議を通じて「私的」から「公的」を生み出す
 - ③について・・・「みんな」で熟議することで、「自分で決める」ことの負担を減らす

3. なぜ熟議が必要なのか？：現代政治の変化から

- 伝統的な政治・政党イメージ
 - * 確固たる社会的支持基盤に支えられた政治・政党 →大衆政党
 - * ヨーロッパの左派政党やキリスト教民主主義政党など
- 政党－社会的支持基盤関係の長期的変容
 - * 政党
 - ・1960年代以降、得票最大化を目指して特定の支持基盤からの乖離
→包括政党（catch-all-party）（キルヒハイマー）
 - ・政党に公的資金が入ることですますその傾向が強化
→カルテル政党（カッツ／メア）
→社会の代表というよりも、国家の代表になりかねない
 - ・各種専門スタッフ（+政党リーダー）が主導する政党へ
→目標は選挙での勝利
＝選挙プロフェッショナル政党（バーネビアンコ）
 - * 社会
 - ・政党の重要な支持基盤としての巨大な社会集団・利益団体の衰退+それへの批判（「既得権益」！）
→結果的に、政党と社会との結びつきは弱体化
 - ・「市民社会」の新たな運動や組織は、政党・政治家政治とは必ずしも十分に結びつかない
 - ・インターネット上の「声」も、必ずしも政党・政治家政治とは結びつかない
 - * その結果：政治の「パーソナリゼーション」
 - ・政党リーダーが政党の「代表」（代表の中の代表）として、個々の有権者と直接的につながる形で支持を獲得。
 - ・リーダーのパーソナリティ・振る舞い方が、政治を決める重要要因となる。
 - ・「演出」のための戦略が重要になる。
- なぜ熟議に基づく政治か？
 - * 「生の世論」に基づく政治から、「練られた世論」に基づく政治へ（フィッシュキン 2011）
 - * 政治の（失われた）「社会的基盤」を作り出すこと
 - * 政治家にとって：何が依拠すべき「世論」なのかを明確化する

4. なぜ必要なのか？：行政と市民との関係から

- 「政治」を行う行政へのチェック／コントロールの仕組みとして
 - * 実際には、行政が「政治」を行い、政策を作っている。
 - 國分功一郎：「立法府が統治に関して決定を下しているというのは建前に過ぎず、実際には行政機関こそが決定を下している。ところが、現在の民主主義はこの誤った建前のもとに構想されているため、民衆は、立法権力には（部分的とはいえ）関わることはできるけれども、行政権力にはほとんど関わることはできない。」（國分 2013: 17）
 - * 「執行」（の名の下での政策の実質的な形成）に市民が「オフィシャルに関わる制度」が必要。
 - * 具体的な提案（國分）
 - ① 住民投票制度
 - ② 審議会等諮問機関の改革
 - ③ 行政・住民参加＋ファシリテーター型のワークショップ
 - ファシリテーターが行政と住民の間を取り持つ形で行う
 - ・ 行政にもメリット：ファシリテーターのおかげで、「ごり押し」ではない形で住民と対話できる。
- 國分の提案について
 - * ③が最も熟議型の提案
 - ∴ 話し合いによる変化可能性を担保しているから
 - ・ なお、①②も熟議的な要素を盛り込むことは可能
 - * ただし、既存の熟議民主主義の制度の多くは、〈行政 - 市民〉間の熟議ではなく、市民間の熟議を想定したもの。
 - 市民間の熟議の結果を「参考」にするという形式
 - 「意見の変化」は、主に市民同士でのそれを念頭
 - * とはいえ、制度の工夫可能性はあるのではないか？
- 行政による政策形成プロセスが「熟議」であるための条件（cf. 田村 2013）
 - * 「熟議」がコミュニケーションの様式である点に注意
 - ・ 制度が一見、「市民参加」「市民協働」的であっても、そこでのやり取りが「熟議」的であるとは限らない。
 - ・ 実際のやりとりについての制度設計が熟議的＝意見の変化可能性を視野に入れているかどうか重要。
 - * 行政がその立場を変える可能性が確保されていることが重要
 - そうでなければ「熟議」とは言えない。「アリバイ」作りの機会と言われてもやむを得ない。

おわりに：結局、「市民参加」が「熟議的」とはどういうことか？

- 単なる「市民の声」ではなく、「練られた声」を伝える
 - 「数」や「大きな声」でなく、「きちんと議論し考えた」ことを「力」の根拠とす

る

- 政府・行政もまた、変化する可能性がある

〈参考文献〉

- 宇野重規・田村哲樹・山崎望（2011）『デモクラシーの擁護——再帰化する現代社会で』ナカニシヤ出版。
- 國分功一郎（2013）『来るべき民主主義——小平市都道328号線と近代政治哲学の諸問題』幻冬舎新書。
- 篠原一編（2012）『討議デモクラシーの挑戦——ミニ・パブリックスが拓く新しい政治』岩波書店。
- 曾根泰教・柳瀬昇・上木原弘修・島田圭介著（2013）『「学ぶ、考える、話しあう」討論型世論調査——議論の新しい仕組み』ソトコト新書。
- 田村哲樹（2013）「市民協働になぜ熟議なのか？」文部科学省生涯学習政策局編集協力『生涯学習政策研究 生涯学習をとらえなおす——市民協働による教育行政』悠光堂。
- 田村哲樹（2016）「熟議民主主義と集団政治——利益団体・アソシエーション・集合性の構成」、宮本太郎・山口二郎編『リアル・デモクラシー——ポスト「日本型利益政治」の構想』岩波書店。
- 平田オリザ（2012）『わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か』講談社現代新書。
- フィッシュキン, ジェイムズ（2011）曾根泰教監修、岩木貴子訳『人々の声が響き合う時——熟議空間と民主主義』早川書房。
- 柳瀬昇（2015）『熟慮と討議の民主主義理論——直接民主制は代議制を乗り越えられるか』ミネルヴァ書房。